

## 豊かさの中の貧困



都議定書拒否により地球温暖化対策はその第一歩すら踏み出せない。

二十一世紀人類は海図のない航海に乗り出している。人類史上初めて経験する過剰生産システムは、これまでのパラダイムを画餅としまった。このシステムは物質的な豊かさを与えてくれたが、絶えざる社会の変革と精神的緊張を強要してやまない。

私が諷中に入学した昭和二十一年四月は、敗戦の翌年であり、窮乏生活のどん底にあった。物質的には貧しかつたが、希望に燃え青天井の下にいる伸びやかさがあった。新生日本再建という大目標と民主主義という新しい枠組に醉っていたともいえる。

五十五年経った現在想像だにしなかつた豊かな社会に生きている。しかし、豊かな社会であるにもかかわらず本当に息苦しい雰囲気で世界は覆われている。バブル崩壊後の日本経済は、政府の度重なるテコ入れにもかかわらず一向に回復せず、国と地方の債務は合わせて六六〇兆円の巨額に上る。

経済の低迷とともに世界は二酸化炭素による地球温暖化やダイオキシンその他による汚染、ゴミ処理問題などに頭を抱えている。ブッシュ大統領の京

都議定書拒否により地球温暖化対策はその第一歩すら踏み出せない。

一方でグローバリゼーションの嵐が世界を席巻している。企業の合併と合理化が進行し、リストラや長時間労働・過重労働がサラリーマンを苦しめている。人と人との繋がりは希薄になり、人心は荒れ、理解の出来ない犯罪が多発している。人間らしい生活、それは家族との団らんや友人との語らいなしには考えられない。私はある時期

HPを作るための検討も行つたが、今年度の実施は見送らざるを得なくなつた。事務局構成メンバー間でEメール網を構築して情報の共有化を図っている。母校のHPには四年弱で六万件を越える訪問者がある。東京清陵会

HPの立ち上げは人名録完成後の大きな課題である。

諷中・清陵の伝統を考えるとき、現在の状況は憂うべきである。地方会や学友会が変質し、伝統を守る土壤は失われつつある。在校生とのコミュニケーションが肝要である。学友会の自治名録を作りたい。第二に、ホームページ(HP)を作りたい。第三に、母校の在学生と交流し卒業生の思いを伝える機会を作りたい。大風呂敷だと批判はあるが、これについて触れておく。

HPを作るための検討も行つたが、今年度の実施は見送らざるを得なくなつた。事務局構成メンバー間でEメール網を構築して情報の共有化を図っている。母校のHPには四年弱で六万件を越える訪問者がある。東京清陵会HPの立ち上げは人名録完成後の大きな課題である。

諷中・清陵の伝統を考えるとき、現在の状況は憂うべきである。地方会や学友会が変質し、伝統を守る土壤は失われつつある。在校生とのコミュニケーションが肝要である。学友会の自治名録を作りたい。第二に、ホームペー

## 海図なき航海の二世紀へ

### ――会長就任のご挨拶――

林 尚孝 (52回)



からそのような考え方を持ち、人間の糸に役立つ潤滑剤になりたいと志した。

私の人生に決定的な影響を与えた心身といふする次第である。

今期役員は、次の方々である。

会員のコメントを収録する人名録は、人間くさい名簿であると同時に名簿制作に会員が参加することに意義がある。とくに、第一線を退いた方々の消息について掲載することは大切であると考えている。現在人名録制作は順調に進行中なので、購入予約をされて

いる方のお手元に間もなくお届けできることと思う。まだ送金されていない

会員数減少や会費納入不振などにその影を見る。昨年度は会費収入予算百六

十万元に対し納入額は四十三万円に留まります。

読む名簿を是非手にとつて頂きたい。

第12号  
発行会  
東京清陵高等学校同窓会  
(諷訪清陵高等学校)  
会長 林尚孝  
事務局 〒120-0005  
足立区綾瀬2-31-7  
(株)小野包装 気付  
TEL 03-5680-7633  
FAX 03-5680-7665  
E-mail: tseiryo@papiacargo.co.jp

# 2001年度 東京清陵会定期総会案内

日時 平成13年10月19日(金)午後6時~午後8時30分  
(午後5時から受付開始)

場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)3F「富士の間」  
東京都千代田区九段北4-2-25 Tel 03-3261-9921  
市ヶ谷駅(JR, 地下鉄有楽町線, 南北線, 都営新宿線, 下車 徒歩2分)  
議題 ①2000年度会務報告, 決算報告  
②2001年度事業計画, 予算案

③『東京清陵会人名録』の刊行

④その他

懇親会 会費 8000円 (在学中の学生は半額)

\*当番幹事 68回生, 次期当番 69回生, サブ幹事 78回生, 88回生。

ご面倒ですが出席, 欠席いずれの場合でも同封の返信用葉書にご記入の上, 9月30日必着にてご返送ください。



左 諏訪湖全景 右 八ヶ岳遠望

大坪 靖 (57回)

## 特集

## 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて



伊藤長七

諏訪の自然を謳い、そこに躍動する青春群像にやがて咲くべき春を信じて理想の岸を目指せと熱き思いを語った校歌「東に高き」は、校風醸成の大きな原動力になった。一世紀にわたり歌い継がれたこの校歌は、清水ヶ丘に学ぶことの誇りをこれから多くの若者に語りかけることだろう。

数年前『小諸なる古城のほとり』を訪ねた折、三百有余年の歴史ある小山家の主人から「父邦太郎が、生涯、師と仰いだ伊藤先生は諏訪の方です」と

明治十年、長七は父伊藤孫右衛門、母りかの三男として諏訪郡四賀村（現諏訪市四賀普門寺）に生まれた。三歳で生母を亡くしたが、祖母に愛育され諏訪高等小学校では儒学に精通した三輪三吉に四書五経を学んだ。十四歳で諏訪中の前身「育英会」に学び、十五歳からは「授業生」として四賀・高島両小学校に勤務して師範学校の入学年齢を待つた。

## 誕生（一八七七年）から長野師範まで

聞かされた。戦後生まれの我々世代では既に風化してしまった長七が、緑の山波を越えた小諸の地で熱く語られていくことに驚きを覚えた。人物事典には「教育革新に身を挺した国士肌教師」「東京府立五中で新教育を実践」と記されている『人間伊藤長七』の足跡と我が校風の源流を探究したい。

創作開拓  
清水多嘉示 作

「東に高き八ヶ岳 西にはひたす諏訪の湖…」、諏中・清陵にその青春を過ごした我々が歌つた第一校歌の冒頭の一節である。その歌詞の作詞者として、いつも目にしたひとつの名前、それが「伊藤長七」である。ところで、伊藤長七とは一体どんな人なのか。ふとこの問いを胸にした我々68回生の会報編集担当は、およそ何も知らないことに愕然とした。そして、次の瞬間、探索しよう、調べてみよう、と活動を開始したのだった。我々の探索は、文献の渉猟、関係者へのインタビューから、諏訪・小諸の現地探訪に及んだ。知る人ぞ知る、しかし、我々にとっては実に刺激と発見に満ちた未知の歴史の探索であった。その一端をここに紹介することにより、読者にとって、校歌の織り成す校風と伝統に思いを寄せるよすがともなれば、何よりの喜びである。

## 第一校歌「東に高き」の作詞者

小林盛男 (68回)

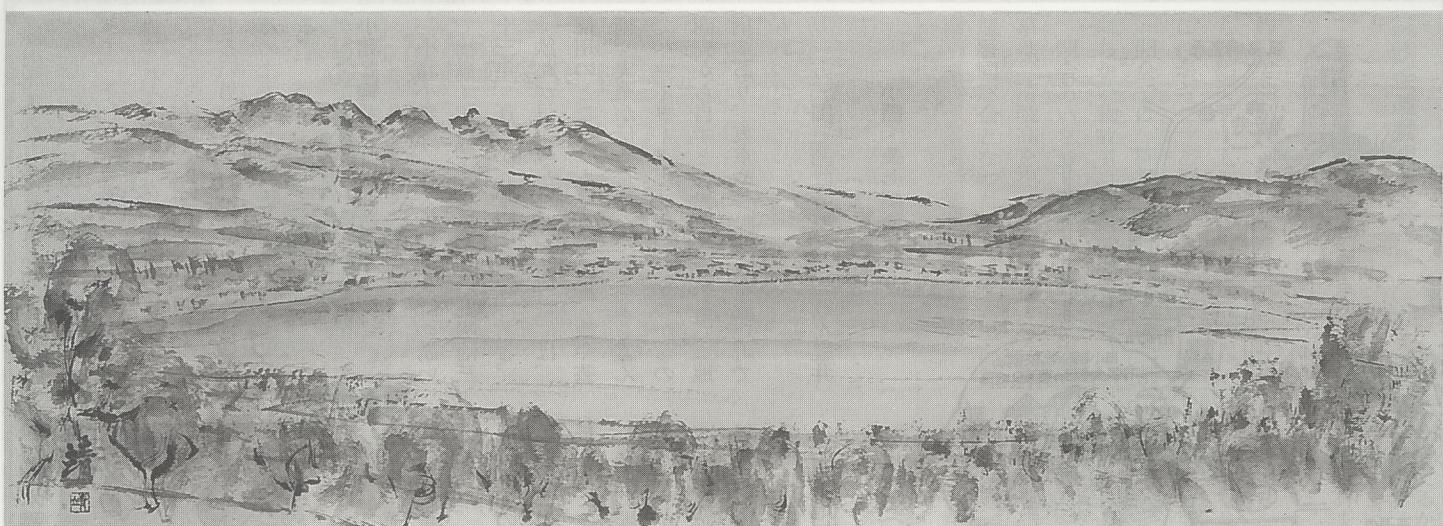
明治二十七年、長野尋常師範学校に郡推挙生として入学。「三十五名中一際目立つ長七は、眉間に容易ならぬ強い気持ちを見せて」「学期が始まると学科ごとに同輩を驚かし、特に数学と歴史と論語では優秀な問答を教師と交わしあれは何者か、諏訪出身の伊藤長七かと、忽ち全員の心をとらえた」四年間常に首席で通したが、三年年の時から長七の志は書冊の上から天下国家の上に移つていった

## 急激な欧米文化攝取の反動として長

野師範では国文学研究が盛んとなり長七は後に中央歌壇で活躍する太田水穂、島木赤彦らと「弁論文章は事業にあらざるか」と大いに議論を戦わした。一年先輩には登山による開拓精神の奨励者岡村千馬太や、後に皇后の御補導役を勤めた依田天籟、文部省唱歌「ふるさと」の作詞者高野辰之らがお

## 創作開拓の碑（諏訪市四賀）

清水多嘉示 作

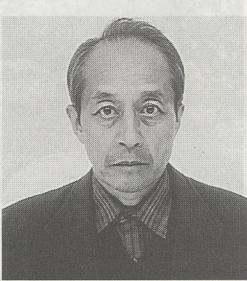


り、力強い文章と意気とを以て長七らに深い影響を与えた。

教科書的読書子であつた長七だが、これら学友から豊かな情操と時代精神を吸収し、「自ら國士をもつて任じ、高声詩を吟じ、剣を執つて舞い、意氣軒昂天下を飲む概があつた」といわれるよう

自己主張の強い性格に変身していった。

後輩の北沢種一に与えた「世を挙げて吾をそしる吾闘せず、世を挙げて吾を褒す吾闘せず、由来俊傑の士、素より天を相手にして人を相手にせざればなり」の言葉には心意気があり、「校風を作る人たれ、校風に造らるる人たるなかれ、時勢を作る人たれ、時勢に作らるる人たるなかれ、



大坪 靖（靖山）氏

五七回生、富士見町出身。山梨大学卒。水墨画家、現代毛筆画会主宰。  
「大坪 靖 水墨画展」  
九月一〇日（木）一五日（火）AM  
10時～PM 6時半（最終日6時）  
紀伊國屋画廊新宿 紀伊國屋書店本  
TEL・〇三一三三四一七四〇一  
なお 上二点の原画も出品。

れ」の言葉には、彼の後の人生を彷彿させるものがある。

初代文相森有礼は師範学校の寄宿舎を兵営と同じ規律下に置いたが、自由と感動の教育を求める長七はこの抑圧に対しても敢然と反旗をひくがえした。

### 諏訪での活動主義教育一八九八年

明治三十一年、二十二歳の青年訓導長七は白く短い袴を着け、太いステッキを持つて諏訪高等小学校に現れ周囲を驚かした。

彼はそれまでの読み書きソロバン一辺倒の教育に対して、児童の自主的な学習や生活態度を引き出すための校外散歩、雪中行軍、陣取戦、遠足登山、野営など活発な行事を創始して身体活動による心の触れ合いを重視した。

長七は休憩時間には進んで児童の輪に入つていたので、学校は天真爛漫な児童の樂園と化して彼の受け持ちの女子高等科は半年で級風が一変した。その感化は全校生徒に及んだ。彼が校門に現れると生徒は一齊に万歳を叫んで歓迎し、自宅は毎晩生徒たちで充满する有様であった。

### 塩原ふゆとの出会い

長七の教え子に塩原ふゆという利発で目の澄んだ娘がいた。諏訪藩用人塩原彦七の子、潮の末娘として高島城の南隣に生れたふゆは、彼の強い勧めもあって長野師範学校に学ぶことになつた。ふゆの学窓の寂しさを慰めてくれたものは巻紙に書かれた長七からの励ましの手紙であつたが、当の長七は教壇を追われて無聊に苦しみ、時には高島天守閣跡に登つて湖に向かい、詩を吟じては浩然の氣を養う日々を過ご

小山正邦氏（小山邦太郎のご子息）  
(小諸にて)

して、そんな二人はいつしか惹かれ合つようになつていった。

### 出会いを活かし、人を生かす



同郷の後輩岩波茂雄は、周囲に気兼ねして長七の家から、彼の説う「男子志を立てて郷閥を出づ、学もし成らずんば死すとも還らず」に送られて上京した。明治三十三年、一高受験失敗のひと夏を小諸の長七宅に世話になつて元気づけられ、そこで内村鑑三の警咳に触れ感動した。翌年合格後はその

当時、高等師範へ進学するには長野師範で二番までの成績と、卒業後、二年間県内でお礼奉公をした上で師範

学校長の推薦をもらつ必要があったが、諏訪での彼は余りに慣れすぎた。

前文相尾崎行雄の演説会後の宴会で劍舞を披露した長七は、酔つた勢いで宿帳に『文部大臣伊藤長七』と書いて物議をかもしたこともあつた。

彼の教育法は教師の威厳を損なうものとしていつも校長と衝突し、やむなく郡内を下諏訪・岡谷と転じたが、その後は、どの学校でも長七の言動に恐れをなして受け容れを拒否された。

小諸小学校時代の長七と教え子達（後列左が小山邦太郎）（明治33年）



「信州人のもつとも良い所を集めたよ、純真多感で、素朴で、学問好きで、そして正義感と向上心の人並みは、それで強い」茂雄を、大内兵衛は「何というはげしい男だ、何という涙もろい男だ」と評したが、この言葉はそのまま長七の人物評としても通用する。

### 小諸と軽井沢 一九〇〇年

小諸小学校の友人伴野文太郎の誘いで綿嶺（和田峠）を越えたのは明治十三年、長七が二十四歳の時である。鉄路が早く敷かれた小諸の町には、信州のどこよりも早くキリスト教や芸術、実業が伝えられた。製糸業も盛んでニューヨーク生糸相場を見ながらの商売から自ずと世界情勢に明るい土地柄であり、東京や長野に一番近い町でもあった。

一方、国道開設で取り残された軽井

澤は、明治十九年、福沢諭吉と親交のあつた宣教師A・C・ショウなどの紹介で「避暑地」として復活の兆しが見えてきた。明治二十二年、頌栄女学校は日本初の夏期林間学校を開き、大隈重信と共に留学した俊才木村熊二も校長としてこの地を踏んだであろう。

第一の開国といわれる外国人の「國内雑居」が認められた明治三十二年、『アジア地区宣教師会議』が開かれた軽井沢に滞在する外国人は九百人を数え、上流階級の日本人も増えてきた。

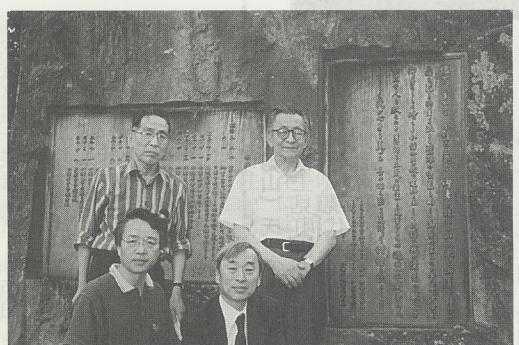
「避暑地軽井沢」は明治期の山国信



伊藤寒水碑 (小諸)

小山正邦氏 (後右) と取材班

つて覚えない新しい気持ちになつて喜んだ。  
「わしが至らないから、君にこんなことをさせてしまった。悪いのはわしだ」と云うなり自らの頭を拳骨で強く叩いて、次に涙と共に依田君にビンタを喰らわした。以来彼は見違えるような行動の持ち主となつた。



藤村「破戒」土屋銀之助のモデル

近代詩の記念碑的詩集『若菜集』を世に出した島崎藤村は、明治三十二年から木村熊二に請われて小諸義塾で教えていた。翌年小諸高等小学校に赴任した長七や佐藤寅太郎などとの出会いは彼の創作意欲を刺激し、小説『破戒』になつてその実を結んだ。

「諏訪湖の畔に生まれ：五分刈頭、顔の色赤々として、血太りして、形り振りも闊はず腕振りし乍ら、談したり笑つたり：

「何時でも君は早春込だ。自分で斯うだと決めて了ふと、もう他の事は耳に入らない：

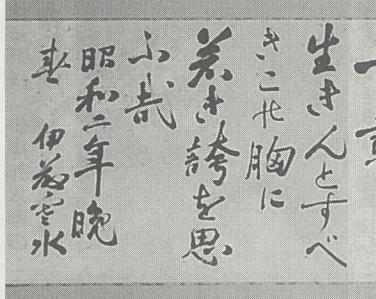
こう描かれた師範出の土屋銀之助は長七がモデルであろう。

「藤村島崎先生と園中を逍遙しつ、花下に温雅なる詩的趣味を聞くを得たりし」と書いた長七は懐古園の散策で藤村と何を語りあつたのだろうか。

### 『小諸を去る辞』 一九〇一年

十一歳の少年たちの前に、遙か南信の諏訪湖の辺から伊藤長七先生が赴任せられた。百二十名の生徒を前に「諸君よ」と、高く手を開き腕を張られた。「私は伊藤長七です。今日から皆と一緒に勉強も運動も、楽しみも苦しみも共にして、力一杯を尽くしたい。そうして皆のすくすくと伸び育つ姿を見ることを、何よりの楽しみとしたい。困ったことがあつたら何でも言ってこい。喜んで聞いてやる。真剣にやるんだぞ。仲良く助け合うことが大切だ」と云われた。何という元気な先生だ。その勢いに驚きもしたが、またか

男の希望  
東天に昇る朝日の  
浅百岳  
立つ土に  
力ある  
双つせ脚を  
みしめて  
鳥鳴る血潮  
千載に  
生き人とすべ  
ゑこせ胸に  
ゑまぐを思ふ  
よ



長七の書「男の希望」(小山家蔵)

明治三十四年四月十二日、上京を前に長七が書き記した全十八頁の『小諸を去る辞』草稿には彼の流麗な文章の推敲過程も見えて興味深い。万感の思いが込められた訣別の言葉には胸を打つものがある。

「昨三十三年春 吾諏訪湖辺の人々に別れて落魄一度浅間山麓に来りし以來風秋雨回顧すれば 既に一星霜の夢を結べにけり。而かも運命の魔神は刻々吾を驅り 吾をして長へに此の愛着の郷に止まるを得ざらしむ。

—懷かしき哉 小諸の土地よ。御身の四周をめぐれる山と水と 御身の身辺を飾れる森と花と 御身の上を流る、清涼の空気と 而して御身が生みたるあどけなき少年少女と…

明治二十六年には横川軽井沢間にアーバト式鉄道が開通していたが、藤村と長七は峠道を歩いた。

—うるわしき哉 碓氷の紅葉秋やうやく長けて四山霜に染まるの候 一日吾れ藤村先生に具して碓氷の新道を辿り天候快晴千里一目見渡せば 谷のくま山の峯 只紅葉と緑と織り交ぜた錦繡にあらぬはなし。脚底に清泉を掬て団子を熊の平の茶屋に命じつゝ身は宛として雲外の仙客に遊ぶの情味何れの日にかかるべし。

—去年四月の日記帳に、  
咲いでし教への庭の梅が香に  
清き心を誰か見るらん  
新芽が枝葉を吹き散らす  
これは二人の結婚を祝う島木赤彦の歌であるが、この頃、彼は千駄ヶ谷に住んでいた。

—今や 千馬太は天龍河畔に去り 十天籟は既に上京して茗渓（高等師範）の学窓に入り 吾もまた親はしの詩星伊藤長七と妻ふゆ（旧姓塩原）



(藤村) に別れて其の後を追わんとす。

熟々思へば 生まれて齡を積むこと既に二十有五。前半生は悉く是れ悔恨不如意蹉跎の歴史なりけり。今より来る後半生は果して如何…

—信濃教育界に於ける三年間の歴史を思へば 恍として唯夢の如し…さらば浅間の山 さらば千曲の水…さらば故国（信濃）の山河健在なれ いざ別れん哉

十五日早朝、「小諸の人々と別れむれば 半輪の淡月おぼろにニコライの尖塔にかかりて お茶の水のおそざくら堤上に片々たり」

諏訪湖の写真を掲げて：窓を排して眺

今や茗渓の橋畔にあり…一人浅間山と

國（信濃）の山河健在なれ いざ別れん哉

伊藤長七の家族

左から二人目が伊藤国男氏  
(伊藤博子さんの父上)

の下に監督を厳しくし、我々を子供のように扱ってきた。今わが校長は、四編制も生徒の手に委ねるなどということは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—寄宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどということが、もし自治に失敗したら天下の笑

とは、「わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。



### 旧制諏訪中学 校歌誕生一九〇三年

長七が妻と長男を諏訪から呼び寄せたのは、ようやく明治三十九年になってからである。

一人子を負ひついだきつ二人して

信濃の山をむかし越えにき

麦畑の小みちわけて乳子だき

われの帰りを迎へし妻はも

—高や高師などの上級学校に進学し

た先輩たちは「自治の精神 自主独立、質実剛健、勤勉努力」などの美風

を諏訪にもたらした。

—高初代校長木下廣次は明治二十三年、「信頼を置いている諸君らへの干涉を止め、全面的な自治を認める」と提唱。これに応えた徳義会総代、赤沼金三郎は諏訪出身の人物である。

—これまでの寄宿寮では、煩瑣な規則

春、三十余年前に一高



後藤新平(中央)と長七(右)、後藤はボーアスカウトの正装  
諏訪大社上社にて(大正15年6月11日)

生が掲げた自治に触れ「自由は独逸の森林に生まれた」と語り、茂雄も後に「ドイツの深い森林が偉大なる哲人を生んだ」と振り返っている。長七が「サクセンの林中」に求めたものは「自由と自治の精神」であり、それはドイツ哲学への憧れでもあった。

—校歌第一・第二は歌詞に込められた意味を味わいながら歌うこと、言葉がこだましあつて精神の高揚をもたらす「一連の叙事詩」と見ることもできる。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

—宿寮を生徒の自治に任せ、規約の編制も生徒の手に委ねるなどといふことは、わが国の種々の官立学校に例がない。全国の学校や教育家たちは、その結果に目を凝らして着目しよう。

### 「道志舎設立趣旨」の起草一九〇六年

明治三十九年、小平権一らの行動から生まれた道志舎だが、一高生となつた権一は長七の支援と地元有力者の協力を得て新寄宿舎を地蔵寺の下に作

り、その運営は生徒の自治に任せた。

—諏中・清陵の自治の精神は道志舎に始まるといわれるが、その『道志舎設立趣旨』は長七が起草した。



この歴史に範を求めるべきである。五中の禍は不便や不都合が多いことにあるのではなく、むしろ他の学校に比べると恵みが多くあることがある。

「困難よ、来たらば来れ。吾らは團結して人心を引き締め、理想の岸は遠くとも一步一歩創作の歩みを踏みしめん」と長七は檄を飛ばしている。基盤

の歴史に範を求めるべきである。五中の禍は不便や不都合が多いことにあるのではなく、むしろ他の学校に比べると恵みが多くあることがある。

愛國者を生み出した。また、豊穣なる南の国が貧しき北の国に圧倒された多くの事実を中国の歴史にも見ることができる。

これらの歴史に範を求めるべきである。

とは悲しむことでない」  
「古今東西の歴史を見ても、ナイル・ガンジス・メソポタミアなど沃野に栄えた文明は、天恵の余りに大きいか故に短期間で滅びた」

長七の姿勢は同窓生の文章に詳しい。  
**ユニークな行事と目的意識の共有化**  
長七の「自由と自治」「開拓と創作」の価値観は、様々なイベントや校友会雑誌「開拓」を通じて教師や生徒の行動と発想に確実に浸透していく。

①端午の節句：空に気球附き鯉幟  
②転地修養隊：信州での林間学校  
③創作展示会：生徒の創造性開発  
④講話会：外部から講師招聘

インスピレーションは「本物」から…

#### ◆ 夏期転地修養隊

長七の故郷信州での林間学校に新聞記者二人が同行している。そこには府民の新設中学校への関心の高さを示すとともに、新聞の力を重視した長七の戦略が見える。「開拓」に載った紀行文には、自然の中で感動しながら学習する生徒たちの姿が、本人たちの簡潔



諏訪・長七関係マップ  
早川次彦(61回生)画

で美しい文章によつて綴られている。

#### ◆ 講話会と創作展示会

東大と理化学研究所が目と鼻の先にあつた五中の界隈には多くの文化人や斯界の権威が住み、長七の人脈もあつた。彼は地の利と人脈を見事に教育現場に生かした。

毎月の「講話会」には、東郷平八郎、後藤新平、澤柳政太郎、末弘巖太郎や女性教育者、探検家などその時代に話題となつた各方面の大家を招いて生徒たちに話を聞かせている。

市民にも開放した「創作展示会」には、生徒の独創的な作品である電信機や汽船など精巧な模型や成果発表だけ

は、生徒の独創的な作品である電信機や汽船など精巧な模型や成果発表だけ

でなく、父兄などからは夏目漱石、徳富蘇峰、土井晩翠、有島武郎などの原稿や、「平治物語絵詞」「明治天皇御製軸物」「後陽成天皇御宸筆」「佐久間象山の砲術研究草稿」「吉田松陰遺墨」

塩原彦男氏邸にて 右から小林盛男、塩原さん、春山明哲、小島一郎



塩原彦男さん訪問記

塩原彦男さんは、長七の妻（旧姓塩原）ふゆの甥にあたる。諏訪中学昭和二年入学の三三回生（卒業は他校）。製糸業や諏訪市の収入役などを務められ、今は高島城の傍にお住まいである。旧四賀村の出である長七の記念碑

の建設には深く関与したとのお話を興味深かつた。その記念碑は昭和四十年に建てられたが、訪れる者も今は少ない

と見え、我々は草を踏みしめてレリーフの傍に立った。夏の光に眼下の諏訪湖がまぶしく眺められ、木立を渡る風

が心地よかつた。

#### 生徒と教師にとっての長七像

一僕等の五中を目指したのは校舎ではない。名譽でもない。唯先生の精神だった。あの高遠な理想は僕等や父兄を



伊藤長七先生頌徳公園入口の碑

などおびただしい「本物」が寄せられ、講堂は溢れるほどであった。

蓄音機を始めて使つたり英國人教師を挙げた。また、理科教育に力を入れて、校庭の一角に気象観測所を設けた。

理化学研究所の若き研究者を招いたりして生徒の自発性や科学的好奇心を

引き出す授業が展開された。後に根本

順吉は寺田寅彦の研究室を教師と一緒に

に訪ねた時の感激を述べているが、生

徒たちは常に「本物」から多くのイン

スピレーションを得ていった。

江上波夫の回想

（府立五中一回生、文化勲章受章）  
一 東京府立五中は大正デモクラシーの自由な精神をそのまま教育に生かしたようなら異例なくめて、いきなりメン

制服もモダンな折襟服で、何事につけて襟にとらわれない考え方を学ぶこ

とができた。

一 伊藤先生は、「都会の若者も、田舎の生活や労働を知らなければいけない」という考え方から、佐久郡志賀村の

村長をしていた神津猛さんにその屋敷

を夏期林間学校として開放してもらつた。そのとき手にした土器や石器から

古代人の暮らしぶりを思い浮かべた。

タルテストがあつた。伊藤先生は人間

の性格を選考対象の一つに考えておられたのであろう。それも、三日も四日も続くのである。

一（伊藤先生は）教師としては必ず抜

いた人です。まずいちばん感心し

たのは、あの方は偉い人を集めなけれ

ばいけないと言つて。偉い人とい

うのは、年齢に関係ない。大学出たて

でも偉いやつは偉いんだ。それでそ

ういう人を探して、いろいろ調べて、会

いにいって、これは偉いなと思うと来

てくれというわけだ。

一 制服もモダンな折襟服で、何事につけて襟にとらわれない考え方を学ぶこ

とができた。

一 伊藤先生は、佐久郡志賀村の

## 伊藤長七関係年表

明治元(1868)年	明治維新
〃 10(1877)年	4月13日諏訪郡四賀村に誕生
〃 23(1890)年	上諏訪「育英会」入会
〃 27(1894)年	長野尋常師範学校入学
〃 30(1897)年	長師四年次、ストライキの先頭に立つ
〃 31(1898)年	長師卒業、諏訪高等小学校訓導
〃 32(1899)年	下諏訪および平野の尋常小学校に転出
〃 33(1900)年	小諸高等小学校に転任
〃 34(1901)年	高等師範学校(東京)予科入学
〃 35(1902)年	塙原ふみ長師卒、高島小勤務
〃 36(1903)年	ふみと結婚、諏訪中学校歌作詞
〃 37(1904)年	長男功誕生
〃 38(1905)年	東京高師卒、研究科入学、「道志舍趣旨」起草
〃 39(1906)年	東京高師附属中学校助教論、千駄ヶ谷村にて新所帯
〃 44(1911)年	高師附属中教論昇任
〃 45(1912)年	東京朝日新聞に「現代教育觀」発表
大正2(1913)年	信濃教育に「新教育と今後の教育」発表
〃 4(1915)年	同「信濃大学創設の國論を樹立すべし」発表
〃 6(1917)年	後藤新平の「木崎夏期大学」創立に協力
〃 7(1918)年	「輕井沢夏期大学」
〃 8(1919)年	新設「東京府立第五中学校」校長就任、五中校歌作詞
〃 9(1920)年	背広を五中制服として採用
〃 10(1921)年	紫友会観測所、英語レコード、全国中学校会議、欧米視察旅行
〃 11(1922)年	ハーディング米大統領会見、ニューヨーク大学スピーチ
〃 12(1923)年	関東大震災、五中講堂開拓館完成
昭和2(1927)年	トロント教育會議出席、帰途ブラジル、ヨーロッパ、シベリア経由で帰国
〃 3(1928)年	教子小山邦太郎普通選舉に応援の大演説
〃 4(1929)年	長七肺炎をこじらせ入院、妻ふみ急逝
〃 5(1930)年	4月19日平塚杏雲堂病院にて逝去、「開拓」伊藤校長追悼号
〃 6(1931)年	伊藤寒水碑小諸善光寺境内に建立
〃 40(1965)年	伊藤長七頌徳公園完成

(四)

**よみうり婦人欄**

試験制度を改善して試験勉強の悪弊を矯正し、小中學の教育を獨立させたい。心理考査の成績に鑑みて悪弊を改めたいと考えます。それにもまして予算がない。長い沈黙の後、「それ程までに諸君が熱望するなら、堂々と戦つてこい。金

明治元(1868)年  
明治維新  
〃 10(1877)年  
4月13日諏訪郡四賀村に誕生  
〃 23(1890)年  
上諏訪「育英会」入会  
〃 27(1894)年  
長野尋常師範学校入学  
〃 30(1897)年  
長師四年次、ストライキの先頭に立つ  
〃 31(1898)年  
長師卒業、諏訪高等小学校訓導  
〃 32(1899)年  
下諏訪および平野の尋常小学校に転出  
〃 33(1900)年  
小諸高等小学校に転任  
〃 34(1901)年  
高等師範学校(東京)予科入学  
〃 35(1902)年  
塙原ふみ長師卒、高島小勤務  
〃 36(1903)年  
ふみと結婚、諏訪中学校歌作詞  
〃 37(1904)年  
長男功誕生  
〃 38(1905)年  
東京高師卒、研究科入学、「道志舍趣旨」起草  
〃 39(1906)年  
東京高師附属中学校助教論、千駄ヶ谷村にて新所帯  
〃 44(1911)年  
高師附属中教論昇任  
〃 45(1912)年  
東京朝日新聞に「現代教育觀」発表  
大正2(1913)年  
信濃教育に「新教育と今後の教育」発表  
〃 4(1915)年  
同「信濃大学創設の國論を樹立すべし」発表  
〃 6(1917)年  
後藤新平の「木崎夏期大学」創立に協力  
〃 7(1918)年  
「輕井沢夏期大学」  
〃 8(1919)年  
新設「東京府立第五中学校」校長就任、五中校歌作詞  
〃 9(1920)年  
背広を五中制服として採用  
〃 10(1921)年  
紫友会観測所、英語レコード、全国中学校会議、欧米視察旅行  
〃 11(1922)年  
ハーディング米大統領会見、ニューヨーク大学スピーチ  
〃 12(1923)年  
関東大震災、五中講堂開拓館完成  
昭和2(1927)年  
トロント教育會議出席、帰途ブラジル、ヨーロッパ、シベリア経由で帰国  
〃 3(1928)年  
教子小山邦太郎普通選舉に応援の大演説  
〃 4(1929)年  
長七肺炎をこじらせ入院、妻ふみ急逝  
〃 5(1930)年  
4月19日平塚杏雲堂病院にて逝去、「開拓」伊藤校長追悼号  
〃 6(1931)年  
伊藤寒水碑小諸善光寺境内に建立  
〃 40(1965)年  
伊藤長七頌徳公園完成

を振りかざすが如き心を起こさしめた。

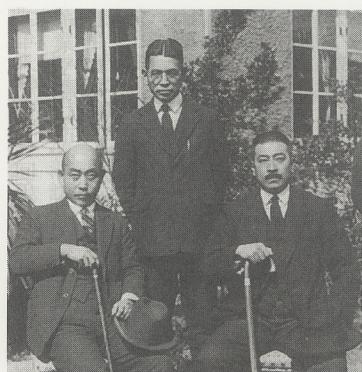
昭和三年、猛練習を積んできた蹴球部は全

国大会への参加を断固拒否された。壳名的で教育に悪弊をもたらす。それにましても予算がない。長い沈黙の後、「それ程までに諸君が熱望するなら、堂々と戦つてこい。金

感動を与え、才能を引き出す長七の「開拓・創作」教育から多くの優れた人材が巣立つて行った。

江上不二夫、池島信平、前川春雄、尾高尚忠、島秀彦、小平邦彦、根本順吉、矢代静一、渡澤龍彦、中村稔、粕谷一希、岡野俊一郎、いずみたく、加藤剛、伊集院礼子などのほか、牧島象二、渡辺武男、福井伸二、吉識雅夫など多くの学士院賞受賞者も輩出。

長七(左)と代議士・小山邦太郎(右)  
(昭和三年普選で当選)



## 友人共同体

人との出会いを大切にした長七だが

彼の「友人共同体」(和辻哲郎)には島木赤彦、太田水穂、岩波茂雄、藤原咲平、小平権一、今井登志喜、三輪知

小山敬三、木村岳風など多くの信州人が名を連ね、その糸を手縫ると夏期大學などの多彩な人脈に拡がっていく。長七に全幅の信頼を寄せた紫友会会員

が「創作展示会」に「本物」を出品した協力姿勢にも「友人共同体」意識は

大いに表れている。

## 夢は南米アンデスの彼方に

「彼が名校長として歴史に名をとどめたのは、彼の存在そのものにあった」

生徒たちは「校長がもうこの辺で泣くぞ」とささやいたが、それは軽蔑とはならずに敬愛に変つていった。飾らない長七の自己表現に職員も生徒も虚礼や虚勢の必要がなくなり、校長の訴えたいものや実現すべき夢をおのずと感じ取つていった。

長七は大正十年、満州奉天で開かれ

た全国中学校長会議に出席。同年十一月には一年余りの欧米視察旅行に出かけ、旅先から生徒や職員一人ひとりに

## 東天に屹立する八ヶ岳

諏訪中学・諏訪清陵高校に校歌と自治の礎をもたらし、東京府立五中(小

手紙を書いている。この時は全国の少年少女からの手紙一万通以上を携えた親善使節の役割も果たし、米国大統領ハーディングにも单独会見している。

昭和二年、カナダ・トロント市で開催された国際教育会議に澤柳政太郎と共に日本代表として列席。その帰途、船を間違えたと称して予定外の南米アラジルまで足を伸ばしアマゾン河畔のアリアンサ移住地などを視察した。

しかし、そうした彼の八面六臂の活躍も無理がたたって昭和四年に発病し、昭和五年四月十九日、平塚の杏雲堂病院にて夫人の後を追うようにして五十三年の生涯を閉じた。

太田水穂は弔辞で、長七が「アマゾンに日本移民の都市を興し、一大私立学校を建設する」という遠大な計画を持っていてことを始めて明らかにした。「君は佐久間象山の言葉をよく語られた。大丈夫、生を此の世にうく、三十にしてその志は一国に繋がり、四十にして五世界につながる。」(君は)

「あらゆる艱難の途を選ばれ、いまや世界と相交るところへ来て……」「むなし千里の望みを閉ざして雄魂再び回らす。」と旧友の死を悼んだ。

今は東京都豊島区雑司ヶ谷墓地に苦労を分かち合つた妻とともに眠る。「伊藤長七 妻ふみ之墓」の文字は元東京市長永田秀次郎が書いた。

諏訪中学・諏訪清陵高校に校歌と自治の礎をもたらし、東京府立五中(小

## 特別寄稿

## 伊藤長七と府立五中

柏谷一希



柏谷一希氏

## 伊藤長七の登場（一九一九年）

大正八年、東京府の公立中学として、久しぶりに創設された府立五中は、初代校長として、高師附属中学教諭・伊藤長七を迎えた。

伊藤長七（明治一〇〇年・長野県諏訪郡四賀村生、ときに四十三歳の壯年であつたが、社会の新しい機運を察知した抜擢人事であつたといえよう。任命者の東京府知事は井上友一、生涯を

地方自治のためにささげた開明的内務官僚であつた。

また伊藤長七自身、単なる中学の教師ではなく、『現代教育觀』を『朝日新聞』紙上に四十八回にわたって連載したことで、一躍有名になつた教育評論家であり、一冊にまとめられて書物松本中学出身の澤柳政太郎によつて書かれたものであつた。

第一次世界大戦が終わり、大正デモクラシーの昂揚期につくられた府立五中は、公立中学であつたが、羽仁もと松本中学出身の澤柳政太郎によつて書かれたものであつた。

伊藤長七（明治一〇〇年・長野県諏訪郡四賀村生、ときに四十三歳の壯年であつたが、社会の新しい機運を察知した抜擢人事であつたといえよう。任命者の東京府知事は井上友一、生涯を

地方自治のためにささげた開明的内務官僚であつた。

また伊藤長七自身、単なる中学の教師ではなく、『現代教育觀』を『朝日新聞』紙上に四十八回にわたって連載したことで、一躍有名になつた教育評論家であり、一冊にまとめられて書物松本中学出身の澤柳政太郎によつて書かれたものであつた。

伊藤長七を「日本教育界の国宝である。長生きさせたい」と語ったこともある

石川高の七十年

柏谷一希他／開拓

東京府立第五中学校紫友会創刊号他／

学問と夢と騎馬民族

江上波夫・日

本経済新聞社／思い出の邦太郎先

生／近代を築いた人々

坂本令太郎

寒水・伊藤長七伝

矢崎秀彦他

●取材協力 塩原彥男（長七の妻塩

原ふゆの甥）／伊藤博子（長七の孫）

都立小石川高校／柏谷一希／小山正

邦／小山邦朋／諏訪市立信州風樹文庫

の研究成果の発表の場であつたが、同時に小石川周辺の文化人たちの原稿も展示され、市民に広く公開された展覧会として新聞にも報道され話題となる性格をもつていた。

当時の小石川の駕籠町（現文京区千石町）は、まだ荒れた郊外といつてよかつた。五中の校地は精神病院（松沢に移転）の跡地であり、隣りは岩崎の別邸であつたが、兎や狸が棲息しており、生徒たちは残つてゐた病院の患者由でのびのびとした校風をつくつていった。英國のイートン中学校を模したといわれる背広にネクタイの制服は東京でも新しい風俗として話題となり雑誌『開拓』は、職員・生徒だけでなく、父兄会やのちに同窓会も含んだ財團法人紫友会の機関誌的存在であり、伊藤長七をはじめ、教師たちも自分の研究を発表し、生徒たちも詩・小説・研究・論文発表をしてながく親しまれた

東京にあって信濃教育の誉れを天下にとどろかせた長七の一周年に当る昭和六年、小諸の教え子たちは小諸善光寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったこともある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去る辞」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったこともある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったこともある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったこともある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったこともある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったもある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。

長生きさせたい」と語ったもある

東郷元帥の快諾を得たとき「鬼の首でも取つたような思いで」抱き合つて泣

いた小山邦太郎は、恩師の「小諸を去

る辭」の一節を「斎戒沐浴、悲壯な思

いで書いた」という。

●参考文献 「現代教育觀」伊藤長在住・三十五回生）両氏の文章に負う

と顔を合わせ、近所の銭湯は「革命湯」と名付けられていて、ロシア革命

の影響が庶民生活にまで及んでいたこ

とを物語つている。東京府は新設を決

定したもの、十分な予算はなく、伊

藤長七校長は、紫友会の組織を通して

父兄の有力者の協力を得て、校地の整備、拡張、施設の充実をはからねばならなかつた。

しかし、情熱的詩人であり、理想主

義者であつた伊藤長七は、自ら校歌を作詞し、日本神話の日本武尊の故事を

作詞し、信濃の豊饒の湖「諏訪湖」で

するならば、岩波書店を興した岩波茂

雄は西にひたす豊饒の湖「諏訪湖」で

あろうか。信濃の深き谷からの清き流

れは今日も豊かに大地を潤している。

東京にあって信濃教育の誉れを天下

にとどろかせた長七の一周年に当る昭

和六年、小諸の教え子たちは小諸善光

寺境内に東郷平八郎の揮毫を得て『伊

藤寒水碑』を建立した。

長七を「日本教育界の国宝である。





ニッポン放送アナウンサー

小口繪理子さん(96回)

人気の女子アナは  
清陵端艇部員だった

ニッポン放送の朝六時から八時半まで放送中の大人気番組「高嶋ひでたけの  
おはよう中年探偵団」で、毎朝爽やかな  
声を送り届けてくれる女子アナを、「  
存じだろうか。実は清陵時代、ポート  
に明け暮れていた小口絵理子さん（九  
六回生）というレッキとした同窓生

大晦日と元日を除く月曜から金曜まで、毎朝三時に起きてがんばっている小口さんは一体どんな女性なのか、その素顔を紹介しよう。

実家は学校から五〇〇メートルくらいで上の兄弟二人とも清陵だったから、「自然に清陵に入学した」小口さんは、先輩の誘いでボート部に飛び込んだ。

「家と学校の往復だけではつまらないでしょ。何か運動に打ち込みたかったの。結局、競技人口が少なくて、勝てるスポーツ」というのがボート人生の出発だった。

国体 インターハイで大活躍



強を図るためには、何をどのように食べるべきか、というので、栄養学も全員で勉強した。

スへ進学した。

を担当して三年目、五キロも痩せたと  
いう。

子どもの時から聴いていた

「実家が風呂場にもラジオがあると  
いう家だったので、小さい頃からラジ  
オっ子だった。今の番組は一七年続く  
长寿番組ですが、実は子供の時から聴  
いていたんです」。

「インターハイでともに三位に入賞し  
た。艇庫には毎朝六時に集合。早朝練習  
の後学校へ行つて授業を受けるが、朝  
が早いので授業中ついついコツクリコ  
ツクリ、それでついた渾名が『眠り

それで霧囲気がつかめたので、大本

番の入社試験は割合気が楽だつた」とはいうもののそこは狹き門、ニッポン放送の入社式では「涙が止まらなかつた」という。

勉強させてもらいました。今、大勢の人と一緒に仕事をする時、本当に為になっています」と、清陵への思い入れを語ってくれた。

放送業界は熾烈な視聴率競争を展開している。「毎朝三〇〇万人の人に聴いていただいている」ので手抜きは許されない。四時に出社して先ずやることは、歌舞伎十八番の「外郎売」（ういらうづり）のセリフを使っての发声練習と、さらに新聞各紙に目を通したり、ニュース原稿の下読み、天気予報の原稿書きと、放送開始までの二時間、息が抜けない。

「いざれは、人に教えるような仕事、例えば大学でアナウンス実習など受け持てればいいなと思っています。いざれにせよ、もつと自分をみがいて、五〇歳を越してもしゃべれたら」と将来に更なる夢を馳せる。

資料によると、血液型はB型、  
E-mail: eriko@1242.com ↪□)△

小口は「ウソつき?

## テレビと違つてラジオ

る人のプライベートなも

ル（築地本願寺内）で行われる。前壳り

眠り姫  
が

国体、インターハイで大活躍

三年生の時には女子フオアで国体、

せるためビデオで研究したり、体力増

とで日本大学芸術学部映画学科演技コ

とのよ<sup>う</sup>に受け流すが、  
「中年探偵団」

roman.com へ。（今井長八郎  
68回）







# 計報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

氏名	年次	逝去年月日
柴田 正象	(18回)	2001.8.8
古山主一郎	(19回)	2001.5.25
矢島 成重	(26回)	1999.9.1
宮坂喜四郎	(27回)	
小林 栄一	(30回)	2000.9.27
小平 啓	(31回)	2000.1.11
小林 吾郎	(31回)	1999.2.17
五味 正人	(32回)	1999.12.30
宝月 欣二	(32回)	1999.12.19
矢崎 敬介	(32回)	1999.11.7
横内 榊口	(32回)	2000.2.7
阿部 義理	(34回)	2000.8.15
原 謙治	(34回)	2000.7.28
山岡 喜久男	(34回)	2000.2.21
友成 正三	(35回)	2000.9.26
大観 倉二	(38回)	2000.6.29
茅野 魏一雄	(38回)	2000.11.13
山岡 一雄	(38回)	1999.10.18
長田 五郎	(40回)	2000.5.1
武居 大一	(40回)	2001.6.21
早出 好都	(40回)	1999.8.10
今井 波辺	(41回)	2001.1.21
岩波 山	(43回)	1999.9.28
武部 永田	(44回)	1998.11.23
中林 宮坂	(45回)	2000.3.1
永田 宮坂	(46回)	2001.1.28
高橋 小林	(48回)	2000.9.6
岩波 浩三	(50回)	1999.10.25
英吉 昭	(51回)	1999.3.10
幸雄 昭	(51回)	2000.6.23
横一 瞬夫	(55回)	1999.12.24
光世 茂樹	(56回)	2000.7.9
伊藤 直文	(58回)	1996.7.10
竹内 節雄	(58回)	2000.8.29
増田 祐一	(59回)	2000.11.26
片山 正敏	(61回)	1999.2.1
高橋 正満好	(65回)	2000.10.2
小林 均	(69回)	1999.12.28
岩波 正雄	(71回)	2000.5.5
		1999.8.30

(事務局に連絡が入った方)

- 11・22 事務局会議・小野包装、九名出席。
- 12・7 南信同窓連忘年会・新宿ラ・コンテ二名出席。
- 12・12 人名録作成検討会・中央印刷九名出席。
- 二〇〇一年
- 1・11 第一回東京清陵会人名録制作委員会・中央印刷九名出席。
- 1・17 南信同窓連新年会・新宿ラ・コンテ二名出席。
- 1・26 六八回生、第一回会議・せいりょう一七名出席。
- 1・30 第二回人名録制作委員会・中央印刷九名出席。
- 2・23 六八回生、第二回会議
- 2・23 「東京清陵会だより」第一二号、第一回編集会議。
- 3・7 常任幹事会・南青山会館二名出席。
- 3・10 第六回「女性のつどい」・渡谷・アンティバスター二名出席。
- 3・13 第三回人名録制作委員会・中央印刷九名出席。

- 3・26 第四回人名録制作委員会・中央印刷九名出席。
- 5・11 第五回人名録制作委員会・中会館一名出席。
- 5・21 東京同窓連幹事会・日本教育会館一名出席。
- 5・25 第六回人名録制作委員会・中央印刷七名出席。
- 6・2 本部常任幹事会及び幹事会・清陵会館三名出席。
- 6・8 第三回編集会議。
- 6・15 第七回人名録制作委員会・中央印刷八名出席。
- 6・16 南信同窓連定期総会・虎ノ門パストラル一名出席。
- 6・22 六八回生第三回会議及び第四回編集会議・神田シティホテル。
- 6・30 本部総会・総会・片倉館参 加者二五〇名、懇親会・浜の湯ホテル参加者三〇〇名。
- 藤森照信君(六八回)の講演「野の若者」

- 7・1 編集委員による現地取材(諏訪・小諸)四名参加。
- 7・13 常任幹事会・南青山会館一二、「東京清陵会だより」第二二号の八名出席。
- 7・23 第六回編集会議。
- 7・25 第九回人名録制作委員会・中央印刷四名出席。
- 7・26 第七回編集会議。
- 7・27 六八回生第四回会議・神田シティホテル二〇名出席。
- 8・7 第八回編集会議。
- 8・10 第一〇回人名録制作委員会・中央印刷七名出席。
- 8・10 第九回編集会議。
- 8・20 第二回事務局会議・小野包装七名出席。
- 8・22 東京清陵会幹事会・南青山会館四七名出席。
- 8・22 第一〇回編集会議。
- 8・30 第一一回編集会議。

- 三世紀を生きた柴田正象氏逝く
- 一八回生柴田正象(しばたまさのり)さんは八月八日午前八時、眠るよう百一歳の天寿を全うされた。一世を風靡した歌声喫茶「灯」を新宿で経営するなど財をなしたが、日常は質素な生活ぶりであった。一方で母校の改築などでは多額の寄付を惜しまれなかつた。ユニークな「納豆とタワシ摩擦健康法」が有名。腕相撲を常に挑ま
- れ、その写真が今年元旦の地元紙「長野日報」紙面を飾った。心からご冥福を祈ります。(55回三井光之)

- 「東京清陵会だより」の最初の編集会議が開かれたのは、真冬の二月下旬のこと。校正その他の編集作業が終了したのは、八月下旬。遙々来ぬるものかなという感慨がなくなりません。伊藤長七といふ「歯ごたえある人物」にかじりついたといおうか、寒水といふ「深み」にはまつたというべきか。探求は未完のうちに締切りを迎えることになりましたが、その間にお会いできた多くの方々のご親切とご好意は、いつまでも心に残ることでしょう。「芸術の香り」を紙面に漂わせようとも考えました。水墨画、写真(と音楽)をお届けできたのも、諸先輩のご協力の賜物です。
- お世話になりました沢山の諸先輩、伊藤長七関係者に感謝しつつ、あとがきとします。(春山明哲記)
- 編集委員(68回生)今井長八郎・小島一郎・小林盛男・春山明哲(委員長)・藤森照信・横内淑郎

## 編集後記

委員長 中澤澄行

『人名録』制作委員会

八月上旬にはお届けであります。鋭意努力いたしておりま

すので、何卒ご了承下さい。

『東京清陵会人名録』は、九月末刊行を目指し編集を進めて参りましたが遅れています。十二月上旬にはお届けであります。

『東京清陵会人名録』は、九月末刊行を目標に編集を進めて参りましたが遅れています。十二月上旬にはお届けであります。

「第七回女性の集い」の開催

五、東京清陵会ゴルフ会開催(春、秋)

六、常任幹事会・幹事会の開催

七、同窓会本部事業への協力

八、郷里同窓会関係団体への参加

野日報」紙面を飾った。心からご冥福を祈ります。(55回三井光之)